

高松市歴史資料館

高松といえば、高松城、栗林公園、盆栽…そして「サンポート高松」!今では瀬戸芸の島々をむすぶ港としても利用され、高松市のシンボリック的存在です。歴史資料館の常設展にはそんな高松港の大きな模型があります。まだ瀬戸大橋がなかった時代、船に汽車を載せて人を運んでいた昭和28年頃のもの。かつては本州と四国を結ぶ港として「四国の玄関口」と呼ばれていました。年表や当時の写真から、時代とともに変化してきた高松港の歴史がよくわかります。



懐かしの連絡船。昭和63年まで運航しました。

香南歴史民俗郷土館

この軒先瓦は、由佐氏の屋敷に使われていたものです。由佐氏の家紋「七宝に万字」が入っています。



由佐氏は、南北朝時代に細川頼春に従い下野国益子(栃木県)から四国へ渡り、讃岐国の井原庄由佐(香川県高松市香南町由佐)に居城を構えました。この地は「由佐城跡」として知られ、由佐氏の子孫が暮らす屋敷がありました。現在、「由佐城跡」に建つ香南歴史民俗郷土館では、古文書などの由佐氏関係資料を収蔵・展示しています。

館の周りのおすすめスポット

瀬戸賞歌フォーシーズン Four Seasons of the Seto 1992.3

資料館のあるビル「サンクリスタル高松」の1階ロビーには、高松市出身の画家川島猛氏の作品が飾られています。川島氏は、彫刻・版画・パブリックアートなど幅広い作風で知られ、瀬戸芸では男木島の作品、川島猛とドリームフレンズによる「ブラック&ホワイト」を制作しています。

常設展では他にも、旧石器時代～近代までぐるりと高松の歴史をご紹介。港都市ならではの歴史が詰まった高松を感じてください!



参勤交代に使った御座船「飛龍丸」

菊池寛記念館

高松市出身の文豪・菊池寛は「文藝春秋」を創刊、親友の名を冠し、現在も新人作家の登龍門である芥川賞、直木賞の創設、著作権の擁護、作家の地位向上など、今日につながる様々な功績を残した偉大な文化人です。今日も演じられる代表作の一つである戯曲「屋上の狂人」は、郷里の瀬戸内海に浮かぶ島を舞台に描かれた作品です。

館の周りのおすすめスポット



中央公園の全身像!

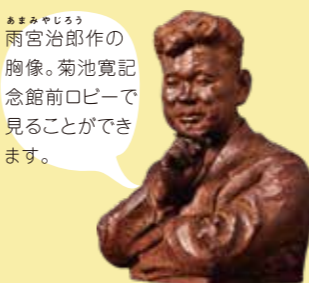
↓菊池寛通りにある、池川直作の「父帰る」群像。



菊池寛の書斎を再現! 机や椅子は菊池寛が使っていた実物です。



館内にある新田藤太郎郎作の菊池寛胸像。全身像が市内の中央公園にあります。



あまみやじろう 雨宮治郎作の胸像。菊池寛記念館前ロビーで見ることができます。

讃岐国分寺跡資料館

天平13年(741)に聖武天皇が全国に命じて建立された国分寺の一つ、讃岐国分寺。資料館では、讃岐国分寺跡出土の遺物やイラストなどで国分寺の歴史をわかりやすく説明。音声案内とともに正面の扉が開く、1/20の金堂模型もあります!



ヤマブキ



アセビ



ハギ

館の周りのおすすめスポット

「万葉植物」を見にきませんか?万葉植物とは、古代の歌を4500首ほど集めて作られた『万葉集』に登場する約160種類の植物のことです。アセビ、ヤマブキ、サクラ、ウツギ、ツツジ、アジサイ、マユミ、ヤブカンソウ、ヒガンバナ、ハギ、フジバカマ、オミナエシなど、20種をこえる花々や樹木が資料館前庭や讃岐国分寺跡史跡公園に。植物や歌を紹介しているパネルもあり、休館日でも見学することができます!

石の民俗資料館

所蔵品の「牟礼・庵治の石工用具」は機械化以前の石工の様子を伝えるもので、国の重要有形民俗文化財に指定されています。そのような貴重な資料がある常設展示室には、石工用具が使われていた当時の丁場(採石場)、石引き、石材加工の風景を再現したジオラマが。演じている屈強な人形達は実在の石工がモデルとなっています。

館の周りのおすすめスポット

石の民俗資料館の周辺にはアートスポットが多く、アーティストたちの作品を巡ることができます!



AKARIシリーズ!

①イサム・ノグチ 庭園美術館 (高松市牟礼町) ※往復はがきにて予約が必要です!



家具!

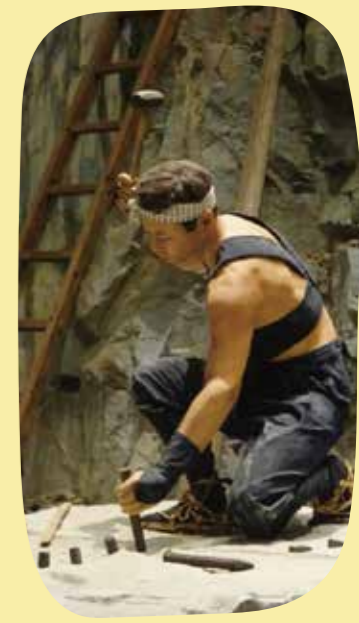
②ジョージナカシマ 記念館 (高松市牟礼町)

③「あじ亀王山公園」 (高松市庵治町)

見晴らしも良く、公園内には瀬戸国際芸術祭2016の出展作品や石彫作品も多数見られます。



灯籠の火袋という部分を作っています。



運べるように石を小割りしています。

高松市埋蔵文化財センター

センターは、職員が考古遺物実測や図面作成を行っている各部屋を廊下から見学できるオープンな施設です。2階の展示室も無料。かつては菊池寛や向田邦子を通った歴史のある小学校の建物を使用しています。

館の周りのおすすめスポット



センター内(四番丁スクエア)にある謎の石積み

古墳…!?ではありません。これは亀井戸と言って、江戸時代の水道施設です。地下のわき水をためて飲み水を送り、城下町「高松」の水がめとしてその発展を支えました。地下にあった亀井戸の施設を地上に復元しています。



遺物実測中!



センターでは体験学習も行っています。お一人様からご予約OKの鑄造体験。「銅鐸」(¥1300)や高松城のシャチホコ「たまもん」(¥500)など、6種類から選んで作りましょう。大人の余暇に、癒しの鑄造体験

